

きたしらかわ てつせんりゅうしらかわおどり

北白川

# 鉄仙流白川踊

京都市登録無形民俗文化財

白川流の  
伝え方

室

町時代末期に、比叡山延暦寺・横川中堂の学僧鉄仙が「念仏が一般に馴染みにくい」ということで様々な物語に念仏風の節をつけ、村人に伝えたのが鉄仙流白川踊のはじまり。歌は、主に石川五右衛門の生涯を歌った曲目です。楽器を用いない念仏踊りとして広まり、静かな歌と踊りになっています。

鉄仙流白川踊の本番前には、江州音頭や鉄仙流白川踊の講習会が行われます。会場が小学校ということで、子どもたちが喜ぶ夜店も何店か立ち並びます。しかし、踊りが始まると夜店は中断され、参加している大人や子どもは踊りに集中します。

7月上旬には小学生に踊りを教える練習会が行われ、さらに本番の4、5日前にもリハーサルが行われます。祭りに携わっている方々は活動を広めるため普及活動にも力を入れています。



## 十六菊の辯

北白川の氏神を祀るのは北白川天神宮です。その花紋が十六菊であることから、保存会の会員は16名と決められています。若い人たちに伝えていくため課題となっています。これからはこの伝統と文化を地元だけでなく、多くの若い人たちにも知ってもらいたいと、活動を広めていく予定だそうです。



祭事 info

8/15 夜 19:45~

京都市左京区北白川別当町 70 (北白川小学校)

市バス(3・5・204系統)京都バス(18・56)「北白川別当町」

京阪バス(56・56A系統)「別当町」徒歩5分

だいもんじやま だいもんじおくりび

# 大文字山 大文字送り火

京都市登録無形民俗文化財

○ 摆らめく火の熱感

**言** わずと知れた五山送り火の1つで、如意ヶ嶽の大文字は最初に灯されます。

送り火は秋の彼岸行事として行われる靈(=おしょらい)送りの灯明です。室町幕府八代將軍足利義政が、嫡子で第九代將軍義尚の死を悼み、東山山荘の裏山如意ヶ嶽中腹に大をかたどって布を張らせたのがはじまりで、一度は忘れ去られていきましたが、江戸時代中期に再興しました。都で公家などが行っていた冥府送りの灯籠上げを、足利家では冥府への足灯りとして天高く灯すために山で篝火(松明)を灯し、義政公を偲んだと考えられます。

午後8時に如意ヶ嶽の山肌に灯明が灯され、五山の送り火が順次灯されます。最後に西方浄土への鳥居形が灯されて秋の彼岸祭は終わります。

残り火(消し炭)は魔除けの守りとして保存会の各家の鴨居に飾り付けられます。送り火が消えかかる頃には、市民の方々も消し炭を受けに登ります。

送り火が終わると、京都三山は秋の風景に変化します。



## ボランティアの活躍

もともと大文字送り火は大文字山周辺に住む家族や、その親族の男性にしか火を灯すことが許されていませんでした。現在のように女性や支援している人々が参加するようになったのは、2000年の大晦日に21世紀を祝って五山全てに火が灯された際、この地域に住んでいない人に対しても参加を募ったことがはじまりです。それからも募集は続けられており、今多くの社会人をはじめ学生、諸団体によって支えられています。



▲松明を燃やすポイント「火床」



うりゅうやま ふどうみょうおうれいさい

瓜生山

# 不動明王靈祭

篤い信仰は  
地域力の証

**江** 戸時代中期から明治時代初頭まで上・下賀茂社が祀られており、北白川天神宮の御旅所でもありました。不動明王は、この賀茂社が北白川天神宮の末社として本殿横に移設された後に祀られたものです。

石像「不動明王」を祀る祠は切石を積み上げたドーム型の石室で、瓜生山の山頂にある勝軍地蔵の祠とよく似ています。石像は一塊の白川石から彫り出され、鎌倉時代後期の作といわれています。表面が著しく摩滅しているので表情は不鮮明ですが、終日拝観していただけるように祠内に照明を取り入れています。朝夕に子どもたちが手を合わせる姿もあり、隠れた信仰スポットとして注目されています。

## 北白川の地域力

全体的にたいへん綺麗に整備されています。高齢化によつて管理が困難になったことから、地元の剣鉾組織「式之鉾」の有志の方々が管理を引き受け、一気に境内整備を行ったのだそうです。高齢化によって伝統行事が途絶えるということをよく聞きますが、このように後継者が現れるということは北白川の地域力の証しといえます。



祭事 info

8月第3日曜日 **昼** 16:00~

京都市左京区北白川下池田町 114-1

市バス(3系統)京阪バス(56・56A系統)「北白川仕伏町」徒歩2分  
市バス(17・32・100・102・203系統)「銀閣寺道」徒歩9分  
市バス(5・204系統)「北白川校前」徒歩7分

しゅうがくいん しゅうがくいんだいにちおどり・もみじおんど

修学院

# 修学院 大日踊り・紅葉音頭

京都市登録無形民俗文化財

## 櫛を囲う夏の紅葉

修

学院大日踊り・紅葉音頭は鷺森神社の御旅所でもある七町会館前の広場で行います。はじめに、音頭取りが歌う「南無妙法蓮華経」という題目に節をつけた歌に合わせて「題目踊り」を踊り、その後「紅葉音頭」が踊られます。季節を先取りしているかのように思われる名前ですが、これは紅葉の名所である修学院離宮にちなんで付けられた名称だと伝えられており、別名「御所音頭」とも言われています。踊りは二つともスローテンポながらも簡単ではありません。

当日は修学院地区に住む人々が集まり、踊りの音頭を取る歌声とともに賑やかな声が響き渡ります。踊るのは主に高校生以上の女性で、紅葉柄の衣装を身に着けているのが特徴です。祭りには大人だけでなく小、中学生やそれ以下の子どもたちも多く集まり、地域の人による綿菓子などの出店には長蛇の列ができるほどです。地域の祭りとして様々な世代間の交流の場となる役割を担っています。



## 私の憧れ

取材に行った当日、高齢の方が多い中、大学生の女性が一人踊っていました。その女性は保存会に入っていた祖母に連れられ、幼い頃から紅葉柄の衣装を身につけて踊る祖母たちを見てきたそうです。そのため「私もおばあちゃんみたいにあの浴衣を着て踊りたい！」と祖母の踊る姿に憧れていたと語っていました。幼い頃感じた憧れを大切にして共に参加する、彼女のような若い世代がいることによって次の世代へと継承していくのでしょう。

祭事 info  
**8/27** 夜 19:30~  
京都市左京区修学院仏者町（修学院七町会館前）  
市バス(5・31・65系統)「修学院離宮道」 叡山電鉄「修学院」徒歩10分

はちだいじんじゃ いちじょうじでっせん

## 八大神社

# 一乗寺鉄扇

京都市登録無形民俗文化財

合いの手に  
のせて

乗寺では8月31日の夜、氏神八大神社の八朔祭が行  
われます。神事、お千度詣に続いてこの一乗寺鉄扇  
の踊りが奉納されます。

中央の櫓に乗った男性の音頭取りの歌(=鉄扇節)に合  
わせ、その周りを女性の踊り子たちが踊ります。踊りの形  
態は「雅楽の舞」の所作から取り入れられたとされており、  
節もゆったりと静かで優雅なものです。櫓は組ますが  
太鼓や笛、鉦などの鳴り物や楽器は使用されず、素朴で民衆的  
な歌に合わせて櫓の周りを踊ります。「ドッコイ」「ソ  
レ」といった合いの手が特徴で、盆踊りに似ています。

この踊りは昭和初期に一度途絶えたこともありました  
が、現在は保存会も結成され、復興、継承されています。

鉄扇節と踊りの起源は遠く、約300年前の江戸中期、元禄  
文化の華やかな頃、京の都の歌舞伎興行打ち上げの「都風  
流踊り」や祇園八坂の遊女たちを中心に踊られた「八坂の  
盆踊り」が近郊農村地帯の洛北一乗寺の里に伝わったとい  
われています。



10

## 鉄扇踊りについて

鉄扇踊りは雅楽の所作に影  
響を受けたといわれています。

古代中国に発生した音楽と  
日本古来の音楽や舞が融合し  
たものと、平安時代に新しく作  
られた歌曲を含めたものの総  
称を「雅楽」と呼びます。

楽器を使わない鉄扇踊りは、  
演奏の代わりに皆で歌を歌い  
ます。

歌詞は物語や紀行文で韻を  
整え、縁語と掛け言葉で巧みに表現  
されています。

祭事 info

8/31

夜 20:00~

京都市左京区一乗寺松原町1

市バス(5・北8系統)京都バス(18・56系統)

「一乗寺下り松町」歩7分 鶴山電鉄「一乗寺」歩10分

化保存会

きたしらかわてんしんぐう きたしらかわたかもりごく

北白川天神宮

# 北白川高盛御供

京都市登録無形民俗文化財

感謝を込めた  
大ごちそう

北

白川天神宮で10月に行われる北白川高盛御供は、秋の収穫を感謝する神事です。北白川天神宮に伝わる高盛といわれる神饌を供える神事で、朝に供えることを朝御饌献饌の儀ともいいます。

神事前日、男衆により神饌造りが行われます。湯がいた小芋を味噌でつなぎ、円錐形状に根気強く高く盛ったもの、縄で縛った盛相に炊いたご飯を円形に固め盛ったもの、そのほか、大根やするめも盛り、サツマイモで作った飾り、シイラという魚などが用意されます。

当日、氏子の中から選ばれた四人の女性は、黒木綿の小袖に紫の丸帯、樺の木染である渋い赤色の前垂れを身につけます。槽に入れた神饌を頭にのせ、北白川天神宮まで列をなし、前日に用意した神前に供えます。この神事は、一の鳥居下の参道で行われるので誰でも見ることができます。



## うぶすながみ 産土神ってなに？

北白川天神宮では、白川村の  
すくなひごとのみこと  
産土神、少彦名命を祀っています。産土神とは土地の守り神であり、その土地で産まれたものを生まれる前から亡くなつた後まで、また他の地へ移住しても守護します。少彦名命は医薬、温泉、酒の守護神でもあります。



祭事 info

10月第1日曜日 朝 8:00～

京都市左京区北白川仕伏町 42

市バス(5・204系統)「北白川校前」徒歩7分

市バス(17・203系統)「銀閣寺道」徒歩10分